

夏の恒例！怪談・ホラー特集

当館では建設に関連する小説も収集しています。その中から怪談・ホラー小説をご紹介します。

建物や自然にまつわる怪異譚を中心に、背筋がゾクッとするものからジワジワと恐怖がくるもの、短編や長編ものなどいろんなジャンルから選んでみました。読んで夏の暑さをひととき忘れてみてはいかがでしょうか…



203号室（新装版）（光文社文庫）

加門七海(著)／光文社／2022年

東京生活にあこがれて田舎から上京してきた女子大生が、一人暮らしを始めたアパートで起こる怪異によって、散々な目にあうという長編ホラー。「著者の実体験も盛り込まれたリアルすぎる恐怖」という触書。ハリウッド映画化作品。



緑の我が家（角川文庫）

小野不由美(著)／KADOKAWA／2022年

小野不由美は、ホラーを得意とする作家であり（もちろん彼女のジャンルはもっと幅広いが）、『営繕かるかや怪異譚』のようにリフォームなど営繕で怪異を鎮めるという、類を見ない作品を著するかと思えば、本作のようなヤングアダルト向けのホラーもものしており、いずれも秀作である。

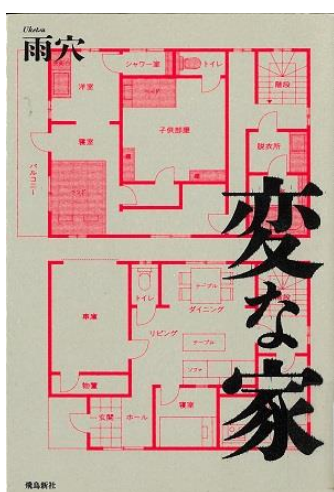
主人公の高校生は、ある事情から一人暮らしを始めるが、そこで不審な出来事が次々とおこり、ついには危険がせまってくる。下宿先を初めて訪れた際に出会った同じ年ごろの和泉聡が、物語のキーマンとなるのだが、裏表紙の解説どおり「怖いけれど優しくて温かい」、そしてせつない読後感を残してくれた。



私の家では何も起こらない (角川文庫)

恩田陸(著)／KADOKAWA／2022 年

丘の上にたつ幽霊屋敷の来歴を、一人話りのオムニバスで綴るホラー小説。それぞれの物語は連関しており、さまざまな作風を自由自在に操る著者の手腕に魅せられて、ページを繰る手が早まるのを感じた。ただし、表紙のあらすじにある「驚愕のラスト」というのは言い過ぎか。



変な家

雨穴(著)／飛鳥新社／2021 年

オカルト専門のフリーライターの筆者が、知人から相談を受けた変な間取りの家。静かな住宅街に建つ二階建てのその家は、中古ではあるが築年数は浅く、近隣環境にも優れている。知人はその家の購入を考えているのだが、ただ間取りに不可解な点があった。その家には「謎の空間」があるのだ。筆者は、大手建築事務所に勤める栗原さんとともに調査を始めた。そして、その家には恐るべき秘密が隠されていたことが明らかとなっていく。

2023 年にはコミック化され、翌年には映画化もされた大ヒット不動産ミステリー。



お道具怪談 (竹書房怪談文庫)

加藤一 (編著)／竹書房／2023 年

18 人の怪談師による全 40 話の短編集。建設関係では、「工事現場にて」というくくりで、バール、パワーショベル、セットハンマー、ランマ、警備員の持つ誘導棒にまつわる怪奇談が語られる。そのほか、亡き父親の工具の話「日曜大工」。罪人の恨みが宿る鉋の怪異「滲む脂」。孤独な大工の道具箱の底から出てきたものは・・・「二人ハ夫婦」。使った者の命を奪う「鑿」などがある。



自宅怪談

夜馬裕（著）／イースト・プレス／2022 年

究極の恐怖とは一番安心できるはずの自宅でおこる怪異ではないか。その部屋、その家、その建物が持つ、この世ならざる地場、人知を超えた恐怖など、その場所をつうじて彼岸の世界が垣間見える、自宅という逃げ場のない場所でおこる恐怖をあつめた怪談集。



川の怪談

正木信太郎（著）／竹書房／2024 年

人類をはぐくみ、文明を興した母なる河川。しかし、同時にすべてを奪い去る恐ろしい災厄ももたらす。人々の生活と密接に関わりながら、時に命をも奪う河川には、予想もしない出来事や得体のしれない存在が潜んでいるかもしれない。本書を読み終わったとき、きっとあなたは川に近づけなくなる。



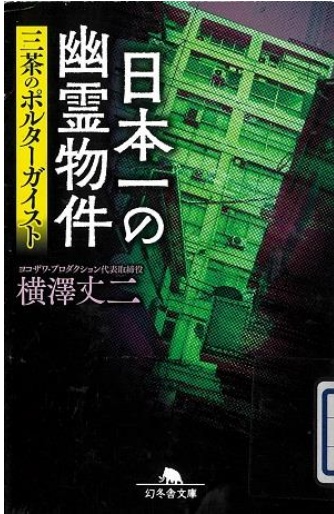
業界怪談

中の人だけが知っている
NHK「業界怪談 中の人だけが知っている」製作班（編）
／NHK 出版／2023 年

NHK「レギュラー番組への道」で取り上げられた同タイトルの番組内の再現ドラマを参考にしたフィクション。フィクションとはいえ、怪異の体験者への取材をもとにしている。

本作では清掃業、タクシー業、フードデリバリーなど8業種での怪談が紹介されているが、建設業界からは「地下からの声」「おきつねさん」、リフォーム業界からは「両親の愛した家」「そこに、誰かいます」の4作がエントリーしている。

業界関係者の対談付き。



日本一の幽霊物件 (幻冬舎文庫)

三茶のポルターガイスト

横澤丈二（著）／幻冬舎／2023 年

芸能事務所ヨコザワプロダクションの代表取締役である横澤丈二氏の心霊体験談。三軒茶屋の駅から歩いて2分程度の商業ビルの4階にある同事務所の俳優養成所が舞台となる。心霊現象は現在進行形で日常茶飯事らしく、靈感がない人でも100%に近い確率で何かしらに遭遇することができるという最凶の心霊スポットらしい。

ただし、あまりにも心霊現象が日常化しているため、横澤氏をはじめ稽古場に通う練習生たちも慣れてしまっているのだとか。

2023年3月にはドキュメンタリー映画化され、翌年6月にも続編『新・三茶のポルターガイスト』が公開された。